

みんなのた場

サ一フル 仲問

おおきわなんがくろ
大沢南部神楽保存会

地域の文化を未来へ継承 伝統担い手の育成に尽力

南部神楽は明治のはじめに南部地方(岩手県)からやってきた旅の行商人たちが伝え、大正期に本格的に普及したと言われています。戦争による存続の危機を乗り越え、今も伝え続けられています。市の無形民俗文化財に指定されている大沢南部神楽保存会は、それまで地域で伝えられてきた神楽を組織的に継承することを目的として昭和51年に発足しました。現在の会員数は15人で北村地域の神楽を舞い続けています。

(74)は保存会発足時からの会員です。当時、神楽を舞っていたのは60-70代が中心でした。佐々木さんは「約15ある演目を手際よく継承するために若手会員が1人1演目を覚えよ」と振り返ります。

保存会では、他地域の似た演目を研究することで途絶えかけていた伝統を守ってきました。また、道具や衣装は女性たちが手作りです。しらえる等地域が一体となり、南部神楽を残し続けてきました。

北村小学校児童たちへの継承にも力を注いでいます。小学生には神楽の基本



▲北村小学校の児童たちへの伝承にも力を注いでいます



▲今年の石巻・桃生・牡鹿地方神楽大会で披露しました(9月20日)

的な舞で、複数人で踊れる「荒神舞」を教えています。メンバーたちは「何年もかけて覚えたことは体が忘れない。苦労して身に付けることが重要です」と語り、時間をかけてしっかりと覚えるように指導しています。3年生から始まり、6年生になると毎年開催している「かなんまつり」等で神楽を披露します。

今では定期的に神楽を舞うことは少なくなりましたが、イベント等に出演する際には練習を重ねます。佐々木さんは「神楽は見る人を楽しませる娯楽文化です。伝承するには力を入れすぎずは長続きさせません。気軽な気持ちで伝えていくことが重要だと思えます」と語りました。

今年には中学生になった教え子たちが学校の文化祭で初めて披露しました。木村さんと佐々木さんは地域の伝統的な神楽に興味を持った子どもたちが、楽しみながら後世に伝えていくことに期待を込めています。

キラッとパチリ

快適なまちを未来へつなぎます

濱井さんは震災復興推進会議や復興推進計画に関する事務、人口対策となる空き家等活用・移住促進事業に携わっています。「誰もが楽しく支え合って暮らせるまちになってほしい」と願い、2児の父親らしく未来につ

ながる仕事にやりがいを感じています。避難所での医療支援活動に従事して以降、被災地への思いは強く、進んで派遣に志願しました。今もフットサルやサッカーに汗を流すスポーツマンで、チームプレーを大

事にしています。「仕事では助けられてばかりですが、チームとして取り組んでいきたいです」と意気込みます。長島さんが石巻市で仕事をするのは平成24年に続き2度目です。その前に平塚市から派遣された前任者の応援で訪れた際、被災地の現状を目の当たりにし、復興に関わりたいという気持ちが強まったといいます。



復興政策部
復興政策課
濱井俊充さん 37歳
神奈川県横浜市から派遣



建設部
下水道建設課
長島秀介さん 34歳
神奈川県平塚市から派遣

震災で地盤沈下した地域の雨水排水ポンプ場の計画や整備を担っており、「浸水がなく安心して暮らせるまち、移住して来なくなるまちになってほしいです」と力を注いでいます。独身で、石巻の印象については「人が温かいまちですね」と笑顔で話していました。

第15回 こわ~い肺炎を予防しよう

石巻市立病院 内科医員 西 俊祐



「風邪がよくななくて」と外来を受診され、実は肺炎だったということがあります。高齢の方では、家族からみて『ちょっと元気がなさそう』くらいの症状にとどまることもあります。肺炎は風邪とは異なり、重症化し死に至ることもある病気です。死因としても3番目に多くなっています。多くの病気に通じることですが、肺炎にかかってから治療するよりも、ならないように予防することが体にも心にも負担は少ないと考えます。肺炎の予防には手洗い・うがい・マスク着用・口の内のお手入れ(病原体の体内への侵入を防ぐ)、十分な睡眠・食事・適度な運動(免疫力を保つ)に加えて、予防接種が有効とされています。高齢の方や持病のために免疫力が下がっている方には、予防接種は特に大切です。平成26年から、65歳以上の方や特定の持病のある60歳以上の方を対象に、肺炎の原因の一つである肺炎球菌に対するワクチンが定期接種となりました。予防のみでなく、たとえ肺炎にかかっても重症化することを防げます。対象となる方は、お近くの医療機関で相談してみましょう。

☆次回1月1日号は「石巻の選び方『ベビー石巻は肌に優しいの?』」です。

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとっておきの話しをお寄せください。

テーマ 「ありがとう」

日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課までお送りください。

掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたものを全て掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。

☎ 秘書広報課(内線4023) ☎986-8501(住所不要) ✉ ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題

雄勝地区



9月27日(日)
大須小学校校庭

秋空の下
地域対抗で熱い戦い

子どもからお年寄りまで地域総出の秋の一大イベント「第4回おがつスポーツ祭り」が開かれました。今年も名振、大須、三区、伊勢畑、上雄勝の地区ごとにチームを編成して玉入れや綱引き、障害物競走等で対抗戦を繰り広げました。終了後は豚汁等が振る舞われ、久しぶりに顔を合わせた住民たちは親睦を深めながら秋のひとときを楽しみました。

河北地区



9月13日(日)
飯野川中学校校庭

消防団員としての
自覚を新たに

市消防団消防演習が行われ、市消防団河北地区団の団員219人が機械器具の操作技術の習得と規律の練成を図りました。開会式で門間一男団長は「地域住民の安全確保はもとより、消防団員としての心構えを再認識する場所である」と訓示しました。演習では規律訓練および小型ポンプ操法競技が行われ、どの班の団員も本番を想定し、真剣に競技に取り組んでいました。

桃生地区



9月11日(金)
桃生公民館

元気いっぱい
踊りました!!

9月12日(土)に開催予定であった「ものうふれあい祭」が中止となったため、桃生公民館を会場として、地区内の小・中学生によるはねこ踊りの発表会が開催されました。どの子どもたちも元気いっぱいで、踊りの練習の成果を十分に発揮していました。子どもたちの躍動感あふれる踊りに会場からは大きな拍手が送られていました。

河南地区



9月20日(日)
遊楽館

日本人の心の古里
伝統の神楽一堂に

日本人の心の古里である神楽を一般公開し、振興と保存を図ろうと、第38回石巻・桃生・牡鹿地方神楽大会が開催されました。石巻地方の7団体が地域で継承してきた古典民俗芸能を披露しました。鹿又法印神楽保存会による太鼓と笛の打ち鳴らしで開幕した後、市や県の無形民俗文化財に指定されている神楽が次々と披露され、会場の市民を楽しませました。

牡鹿地区



9月13日(日)
牡鹿公民館跡地

クジラのまちに活気

捕鯨文化を伝承する「牡鹿鯨まつり」には地域内外からたくさんの方が訪れ、にぎわいました。恒例の鯨肉の炭火焼試食コーナーもあり、香ばしさに誘われた人たちが長い列ができました。大型トラックの荷台を活用したステージでは、地元小中学生の太鼓演奏のほか、石巻地区消防音楽隊、伊達武将隊等が次々と登場して会場は終日活気にあふれました。

北上地区



8月28日(金)
にっこりサンパーク

体を動かし
楽しく交流

北上支部老人クラブ連合会の会員11人が「宮城ヘルシー2015ふるさとスポーツ祭石巻地区大会」(9月6日)に向けてグラウンドゴルフとペタンクの練習を行いました。出場するからには良い成績を残そうと、活発に体を動かし、笑い声を響かせながらスポーツを通じた交流を図りました。大会本番では練習の成果を存分に発揮し健闘しました。

石巻地区



10月3日(土)、4日(日)
橋通り等

子どものまちで
仕事体験

商店街の一部を子どもたちに開放する「子どものまち・いしのまき」が開催されました。小中学生が運営する店や事務所で「社員」となった子どもたちが働き、給料として得た地域通貨「マキ」で他店の商品を購入できる仕組みで、参加者たちは仕事も買い物も楽しそうに体験していました。4回目の今年も大勢が参加し、まちはにぎわいました。

石巻地区



9月27日(日)
中瀬公園

地域に広げる
福祉の輪

イベントを通して地域に福祉の輪を広げる「2015いしのまき福祉まつり」が開かれました。市内の福祉施設や団体による各種模擬店が人気を集めたほか、ステージでは石巻手話勉強会の手話ソングをはじめ、さまざまな市民団体の踊りや歌が会場を盛り上げました。また、震災後、チャリティーライブを行っている沖縄県の民謡歌手による琉球民謡もイベントに花を添えました。